

芝専用除草剤 (土壌処理型)

フルハウス[®]

フロアブル

フルハウスで勝ちに行く。

農林水産省登録 第20411号



Bayer Environmental Science

フルハウス フロアブルの除草効果

一年生イネ科雑草に対して発生前の散布で高い除草効果と残効性を発揮します。

殺草スペクトラム

日植調委託試験および社内試験から抜粋

薬量 (ml/m ²)	0.075	0.1	0.15
雑草名			
メヒシバ	●	●	●
オヒシバ	●	●	●
スズメノカタビラ	●	●	●
アキメヒシバ	◎	◎～●	◎～●
エノコログサ	◎	◎	◎
ヒメコバンソウ	●	●	●
スズメノテッポウ	●	●	●
カヤツリグサ (参考)	◎	●	●
オランダミミナグサ (参考)	●	●	●
ハコベ (参考)	●	●	●
ウシハコベ (参考)	●	●	●

<殺草効果 (評価)> ●: 極大 (残草量 0%) ◎: 極大 (1~5%) ○: 大 (6~10%)
□: 中 (11~30%) △: 小 (31~50%) ×: 極小 (51%以上)

残効性

スズメノカタビラに対する残効性

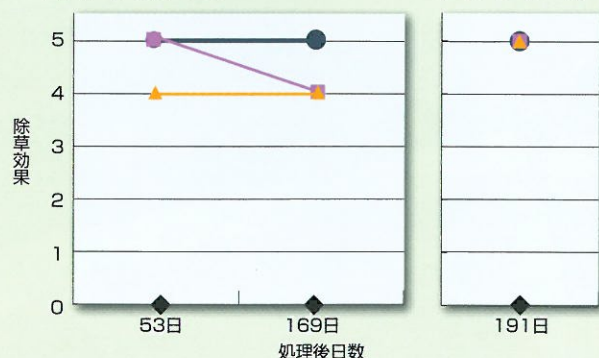
- 試験場所: (株)ユニカス つくば園場
- 供試芝: ノシバ
- 散布条件: 水量 200ml/m² 展着剤無加用
- 処理日: 1996年10月21日
- 調査日: 1997年2月13日 (処理53日後)
- 1997年4月8日 (処理169日後)
- 1997年4月30日
- (処理191日後: ミミナグサ調査)

メヒシバに対する残効性

- 試験場所: (株)ユニカス つくば園場
- 供試芝: コウライシバ
- 散布条件: 水量 250ml/m² 展着剤無加用
- 処理日: 1997年3月26日
- 調査日: 5月15日 (処理後50日)、6月18日 (処理後84日)、
- 7月18日 (処理後114日)、8月6日 (処理後133日)

スズメノカタビラ

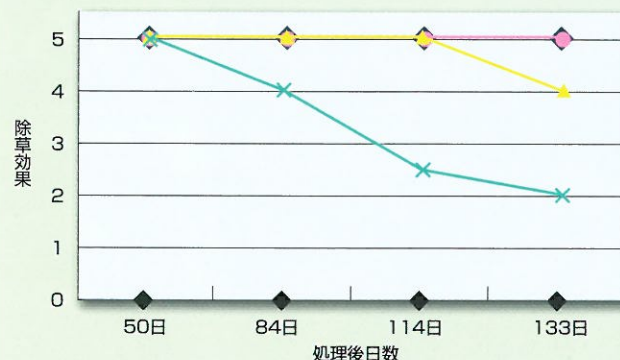
ミミナグサ (参考)



5: 発生無し
4: 発生希少
3: 発生少
2: 発生中
1: 発生大

● フルハウスフロアブル 0.1 ml/m²
■ A水和剤 0.6 g/m²
▲ B水和剤 0.6 ml/m²
◆ 無処理区

メヒシバ



5: 発生無し
4: 発生希少
3: 発生少
2: 発生中
1: 発生大

◆ フルハウスフロアブル 0.15 ml/m²
● フルハウスフロアブル 0.075 ml/m²
▲ C水和剤 0.12 g/m²
× D顆粒水和剤 0.5 g/m²
◆ 無処理区

日本芝・緑化樹木に対する影響

フルハウス フロアブルは日本芝や樹木に対する影響が小さい薬剤です。

日本芝に対する影響

- 散布条件：水量200ml/m²、展着剤加用
- 調査：処理後約3ヶ月にわたり随時達観調査を行い総合的に評価した。

		萌芽期処理（萌芽日：1997年4月20日）						生育期処理（1997年）				
		試験場所：(株)ユニカス つくば園場						試験場所：埼玉県Aゴルフ場				
処理日 (萌芽前もしくは萌芽後日数)		3.25	3.31	4.8	4.14	4.24	5.1	5.16	6.3	6.18	6.25	8.18
薬量 (ml/m ²)		(-26)	(-20)	(-12)	(-6)	(+4)	(+10)					
コウライシバ	0.2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	0.4	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	0.8	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ノシバ	0.2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	0.4	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	0.8	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

緑化樹木に対する影響

埼玉県花植木センター、(株)ユニカス つくば園場試験より抜粋

樹種名	土壌処理 (0.4ml/m ²) 薬害及び症状	茎葉処理 (0.2ml/m ²) 薬害及び症状
アベリア	ナシ	ナシ
イヌツゲ	ナシ	ナシ
ウバメガシ	ナシ	ナシ
キャラボク	ナシ	ナシ
クロマツ	ナシ	ナシ
ケヤキ	ナシ	ナシ
コノテガシワ	ナシ	ナシ
サザンカ	ナシ	ナシ
サツキ・ツツジ	ナシ	ナシ
シャリンバイ	ナシ	ナシ
ドウダンツツジ	ナシ	ナシ
トベラ	ナシ	ナシ
ネズミモチ	ナシ	ナシ
ヒマラヤシダー	ナシ	ナシ

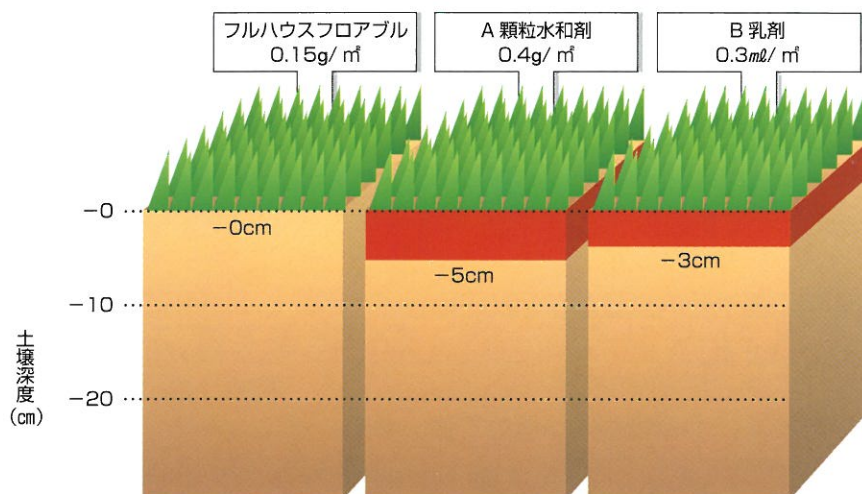


環境中の移動性

フルハウスフロアブルは、使用薬量（成分量）が少ない上、水に溶けにくく、また土壌吸着性が極めて強いいため地下水や河川への流出が少ないと考えられます。

土壌での移動性

- 試験場所：(株)ユニカス
 - 試験日：1998年7月7日
 - 土壌：砂壤土
 - 散水量：30mm/1時間
- ポットに栽培したノシバに薬剤を処理後、散水を行った。
（1時間当り30mmの降雨を想定）
表面から水がなくなった後に、中心部からタテに土壌を切断し、土壌断面にベントグラスを播種した。
発芽の有無によって薬剤の移動距離を判断した。



ゴルフ場周辺水系調査

- 試験場所(薬剤処理日)：埼玉県Aゴルフ場(1997年4月1日)
広島県Bゴルフ場(1997年4月14日)
- 使用薬量：0.15mL/m²、水量 200mL/m²

ゴルフ場	採取場所	散布前濃度 (ppb)	降雨後濃度 (ppb)	1ヶ月後濃度 (ppb)	2ヶ月後濃度 (ppb)	3ヶ月後濃度 (ppb)
埼玉県 A ゴルフ場	採取日	1997/4/1	1997/4/7	1997/5/2	1997/6/2	
	降雨量		4/6 2.0mm	202mm/月	24.5mm/月	
	8 番ホール調整池	nd	nd	nd	nd	
広島県 B ゴルフ場	採取日	1997/4/14	1997/4/25	1997/5/10	1997/6/13	1997/7/7
	降雨量		4/21 22.5mm	185mm/月	181mm/月	365mm/月
	7 番ホール調整池	nd	nd	nd	nd	nd
	3 番ホール調整池	nd	nd	nd	nd	nd

※ nd は検出限界以下を示す。

4日)、
33日)

スズメノカタビラ、メヒシバなど 悩める雑草に、キメの一手。

はじめに

フルハウスフロアブルは、オキサジノン系のオキサジクロメホンを有効成分とする日本芝専用の土壌処理型除草剤です。

本剤は、(財)日本植物調節剤研究協会委託試験において、発生前のメヒシバやスズメノカタビラ等の一年生イネ科雑草に対して卓効を示すとともに、長い残効性が確認されています。

また、日本芝に対して優れた安全性を有しております。

本資料は、フルハウス フロアブルの特性を簡単に取りまとめたものです。

本剤をご使用いただく際の参考になれば幸いです。

特 長

- **スズメノカタビラ、メヒシバ** など一年生イネ科雑草に卓効を示す**土壌処理剤**です。
- 実際の使用場面や社内試験から120日以上**安定した残効性**が認められています。
- 水に溶けにくく、土壌吸着性が極めて強いので、**土壌中での移動が少なく**、地下水や河川など**環境への流出が少ない**除草剤です
- 完成された日本芝の**萌芽期～生育期・終期まで**幅広い時期で使用できます。
(寒冷地型芝草には薬害の恐れがあるので使用しないで下さい。)
- 人畜及び水産動物に対する毒性が低いので安心して使用できます。
- 緑化樹木の周辺で安心して使用できます。

グッドコンディションの裏にフルハウスあり。



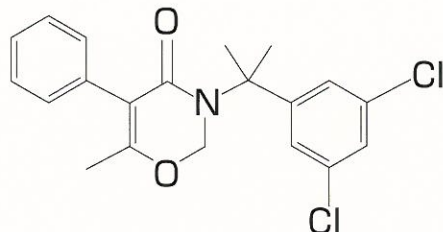
■ フルハウスフロアブルの一般的性状

一般名：オキサジクロメホン

有効成分の化学名および含有量：

3-〔1-（3,5-ジクロロフェニル）-1-メチルエチル〕-3,4-ジヒドロ-6-メチル-5-フェニル-2H-1,3-オキサジン-4-オン……………30.0%

構造式



- 性状：白色結晶
- 融点：148±1℃
- 水溶解度：0.15ppm（20℃）
- 蒸気圧：1.6×10⁻⁵mPa（25℃）

●人畜毒性：普通物

急性経口毒性（LD ₅₀ ）	ラット♂♀	>5,000mg/Kg
	マウス♂♀	>5,000mg/Kg
急性経皮毒性（LD ₅₀ ）	ラット♂♀	>2,000mg/Kg

●水産動物への影響

コイ	96hr（LC ₅₀ ）	>1,000ppm
オオミジンコ	48hr（EC ₅₀ ）	886ppm

■ 適用と使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り		本剤の 総使用回数	使用方法
			使用量	散布水量		
日本芝	一年生 イネ科雑草	雑草発生前 （芝生育期）	75～150ml	200～300ℓ	2回以内	全面 土壌散布

⚠ 効果・薬害等の注意

- 本剤は貯蔵中に分離することがあるので、使用に際しては容器をよく振ってください。
- 本剤は一年生イネ科雑草の発生前に有効なので、時期を失しないように均一に散布してください。（効果）
- 本剤は広葉雑草には効果が劣るので、広葉雑草の優占する芝生では、これに有効な剤との組合せで使用してください。（効果）
- 十分に活着した日本芝に使用してください。（薬害）
- 寒冷地型芝生には薬害を生じるので使用しないでください。（薬害）
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導をうけることが望ましい。

⚠ 安全使用上の注意

- かぶれやすい体質の人は、取り扱いに十分注意してください。

■ 作用機作

オキサジクロメホンは非ホルモン吸収移行型の除草剤で、主に雑草の根部および茎葉基部から吸収され、茎葉部のクロロシスと生育停止症状を呈しながら雑草を枯死に至らせます。生化学試験の結果、既存除草剤の作用機作であるDNA合成、たんぱく質合成、アミノ酸合成、脂質合成および有糸分裂等の阻害には何ら影響を及ぼさない新規の作用機作であることが確認されています。

また、日本芝・雑草間の選択性の発現に関しては、オキサジクロメホンの吸収移行および代謝速度の差異に起因するものと推定されます。

- 使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載内容以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届くところには置かないでください。
- ※空容器は圃場に放置せず、環境に影響のないように適切に処理してください。

取扱店

バイエルクロップサイエンス株式会社
エンバイロサイエンス事業本部
〒100-8262 東京都千代田区丸の内1-6-5
www.bayercropscience.co.jp

（EL3-19）18.7.NY 印刷：平成21年3月